



風疹流行！他人事ではありません！

風疹は飛沫感染(咳やくしゃみでうつる)し、2～3週間の潜伏期間の後、発熱や発疹、リンパ節の腫れなどの症状が出ます。1～2割は症状が出ない「不顕性感染」で、かかっていることに気付かない場合もあります。風疹自体は基本的に症状も強くなく自然治癒します。そのため、発熱や関節炎に対して解熱鎮痛剤を用いる対症療法のみです。

基本的には予後良好な疾患ですが、時に血小板減少性紫斑病、急性脳炎等の合併症がみられることもあります。



風疹の一番怖いところは…

●妊娠初期の初感染により、風疹ウイルスが胎児に移行して先天性風疹症候群を起こすことです。赤ちゃんが、先天性心疾患、難聴、白内障、網膜剥離を起こしたり、新生児期に低出生体重、血小板減少性紫斑病、溶血性貧血、間質性肺炎等の重篤な疾患になることもあるのです。

【予防が大切】



前述した通り、風疹の症状は強くありません。一度かかると多くの場合、生涯かかる事はないと言われています。しかし、子どもの頃に感染した記憶が確かでなく、「はしか」や「りんご病」を風疹と勘違いしていることも少なくありません。

年代によっては過去に1回しか予防接種を受けていない、もしくは一回も受けておらず抗体がない方もいます。あなたのお子さん、お孫さんのためにも一度風疹ワクチン接種を検討してみてください。弱毒化したウイルスを予防接種し、風疹ウイルスに対する免疫を得ることができます。市町村の補助の対象となる場合もありますので、お問い合わせください。

これから2020年東京オリンピックに向けて、より世界が近くなります。

予防できる感染症は、可能な限り対処しましょう。